

# 沖縄玉城垣花のレンガの家保存改修

2012.5

team DREAM

100 年程前に自分の祖先が建てた建物、それも、この沖縄の玉城の地に生まれ、地球の反対側にある南米に渡り、そこで稼いで故郷に錦を飾ったという曰くつきのレンガ造の小さな建物は、子孫にとって、自分のルーツ、そして、沖縄の歴史を知るかけがえのない貴重な存在である。

ベルギーの子供は、レンガを持って生まれるという話（資料 1 参照）、そして、ナチスドイツによって占領され破壊されたポーランドワルシャワの街の復元の話（資料 2 参照）は、歴史を伝える建物の大切さを伝える話として参考になる。

玉城村史第 7 巻移民編には、このレンガの建物のことが記述されている。「基吉」という人がブラジルで習得した建築技術で、古里の垣花で異国風の煉瓦造りの二階家を新築し、ミーヤの煉瓦屋と呼ばれて評判になったとある。竣工当時は 2 階建てであったが、2 階部分は壊れたらしい。

さて、このレンガの建物、平面的には 4.9m×5.8m、階高 2.3m と、極めて小さい。壁はレンガ積で、5ヶ所のアーチ型開口を持つ。屋根は木造のトタン葺きであったが、穴があき朽ちている。床も石貼りと畳下地の板貼りであるが、木材は朽ちている。開口の建具もひどい。現状のままでは雨漏れ、台風で屋根が飛び、いつかレンガ壁も倒れるだろう。

改修としては、レンガ壁の上部を一部撤去して鉄筋コンクリートの臥梁を設け、頭をつないでレンガ壁が倒れることを防ぐ。屋根は木組を造り直し、トタン屋根も葺き直す。できれば、最上部にトップライトを設けると、内部空間の雰囲気はよくなる。開口はアルミサッシか木製建具に代える。床も全面石の乱貼りとする。壁は現状の漆喰をそのまま残せば古風に見えるし、漆喰を塗り直せば新品となる。外部側は、今回、庇が延びるので現状のままでの充分である。

改修すれば、この建物の活用方法はいくらかでもある。小さい歴史博物館、カフェ、ギャラリー、本屋、小物の店など、様々な利用が考えられる。めずらしいレンガの建物、沖縄の移民の歴史を伝える建物として話題となり、多くの人が集まる場となろう。

小さいからこそ、保存し易く、改修し易く、しかも、活用し易い。沖縄の未来を考える場として残したい建物である。



# 歴史の証人 旧沖縄少年会館

福村 俊治

1953年滋賀県生まれ。関西大学大学院修了。建築士事務所チームドリーム代表。県平和祈念資料館、県総合福祉センター、那覇市役所銘刻庁舎、首里支所などを設計。

沖縄にはない。

ヨーロッパを旅して誰しもが驚くのは古い建物や街並みの保存と美しさであり、街の個性である。先日、テレビで世界遺産となっているポランド・ワルシャワの旧市街地が紹介されていた。14世紀ごろにつくられたこの旧市街地、実は第2次大戦にドイツ軍によって徹底的に破壊された。それは、戦闘によるものでなく、ドイツがポランドを支配するべく、歴史を消し去るための意図的な破壊であった。しかし、事前に建物や街並みの詳細な図面を大学の建築学の教授や学生たちが作製していた。戦後、復興のリーダーとなったその教授は「歴史を奪われた国民は存在しないも同然であり、街の復元は国民的アイデンティティの復元である」と市民に訴え、多くの市民が壊れたレンガをひとつひとつ拾い上げ、完璧に復元した。そ

私たちが訴えている久茂地公民館(旧沖縄少年会館)の保存・活用運動は、老朽化したこの建物を単なる郷愁からただ残したいと願っているのではない。戦後66年がたち、今なお「スクラップ・アンド・ビルド」の建物・街づくりが続く沖縄で、建築や街のあり方が今、問われている。建物の保存運動が大きく話題となったのはこれで2度目、十数年前の立法院の保存運動があった。米軍施政下にあった復帰前の歴史を伝える建物としての保存が訴えられた。しかし、老朽化・拡幅道路にかかるなどの問題から解体された。その後、もその時代を伝えていた建物の解体が続いている。古い建物で、保存・活用されている例は残念ながらもまだ

して、1986年、最初の世界遺産に選ばれた。選定理由は、美しい建造物や街並みそのものの評価でなく、「破壊から復元および維持への人々の営み」が評価されたからだ。沖縄は沖縄戦で先人から受け継がれた文化財や建造

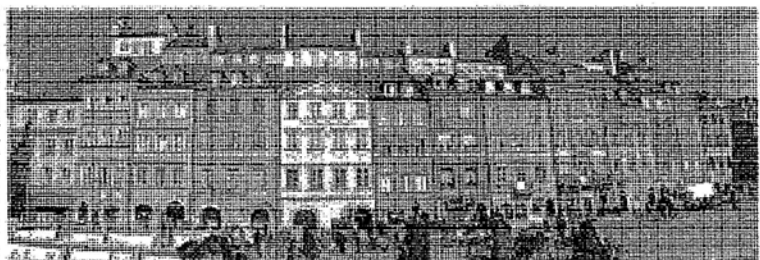
## 建設、解体も環境負荷

### 歴史伝える街づくり

### メンテナンスで維持可能

物や街などすべてを失った。戦後は米軍占領と基地化によって、街を復興する自由すら奪われ、長期的ビジョンもないまま復興が始まった。そんな抑圧された米軍施政下の時代に、形だけの自治権が与えられ、米

住民の手で復元された世界遺産ワルシャワ旧市街地の建物群。市民の憩いの場であり、有名な観光名所である



また政治闘争の場となった立法院の建物である。一方、この社会混乱の同時代に、将来の沖縄を担う子供たちに夢を与え、沖縄のアイデンティティの復活を願い、寄付金を集め、県民自らの手でつくったのが沖縄少年会館である。そして今、老朽化を理由に再び歴史を子孫に伝える大切な遺産を失う危機にある。

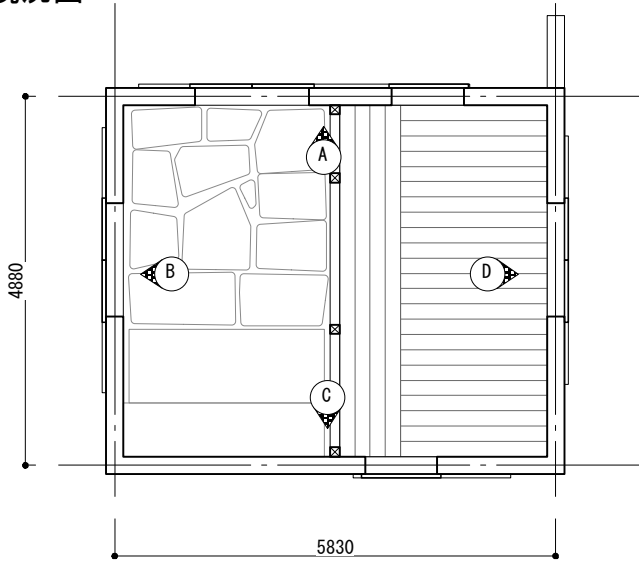
建物は今や30年ほどで老朽化することが一般化し、その主な原因が海砂や施工のまですべておこなわれている。しかし、現実には、復帰後のJIS規格の生コンや、厳しい設計施工監理下で建設された学校や公営住宅さえ建て替え工事が進んでいる。私の見る限り、それはメンテナンスにある。定期的なメンテナンスは、50〜60年たつて現存もすっかり立ち続け、復帰前の自然や景観もすっかり残っている。復帰後、経済振興の名のもとに10兆円を超える資金が投入され、都市のインフラ整備が行われた。海の埋め立てや緑の丘陵地をけずって都市が拡大し、豊かになったように見える。しかし、今、旧少年会館や久茂地小学校のある中心市街地が空洞化し、さまざまに建築・都市問題が山積している。私たちの身近な住宅や街も同じ問題をかかえている。

(一級建築士)

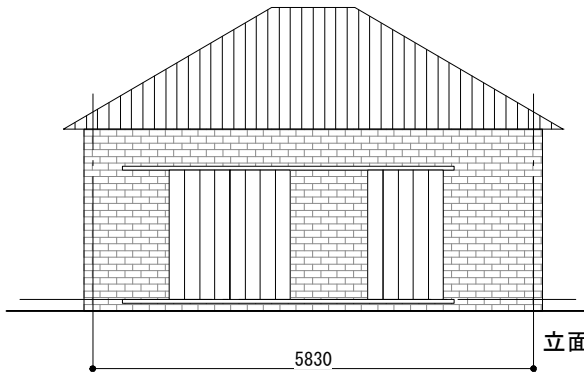
■ 現況写真



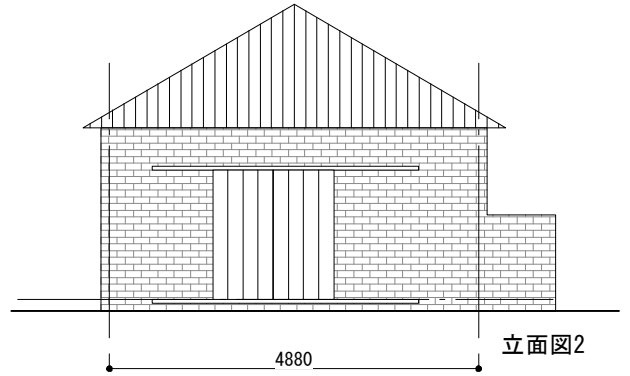
■ 現況圖



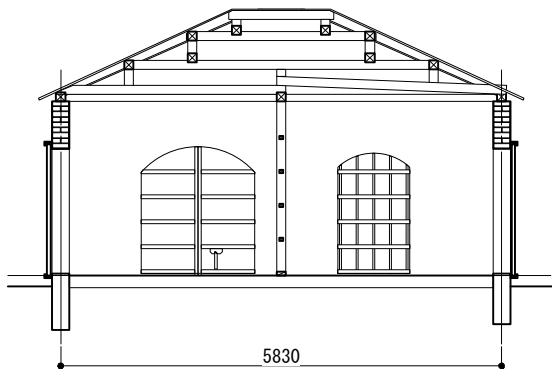
平面圖



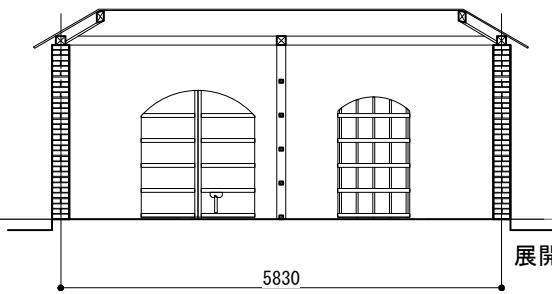
立面圖1



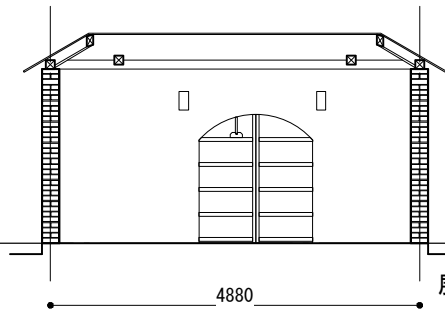
立面圖2



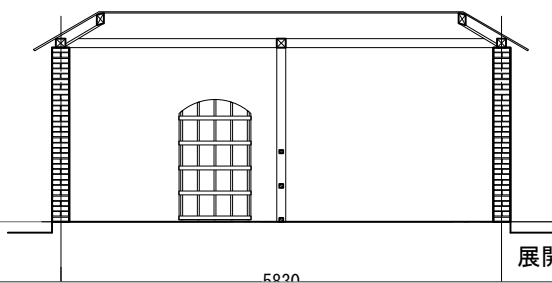
断面圖



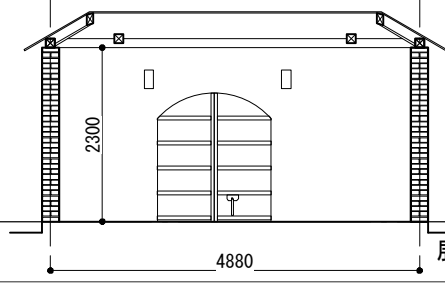
展開圖A



展開圖D

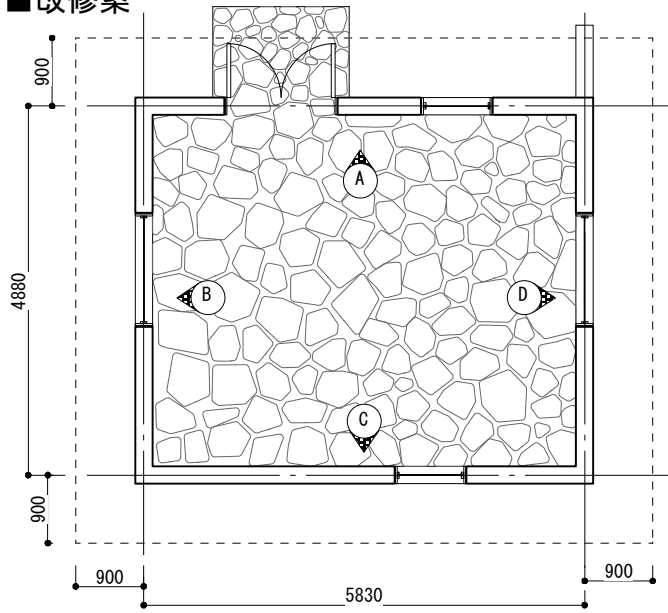


展開圖C

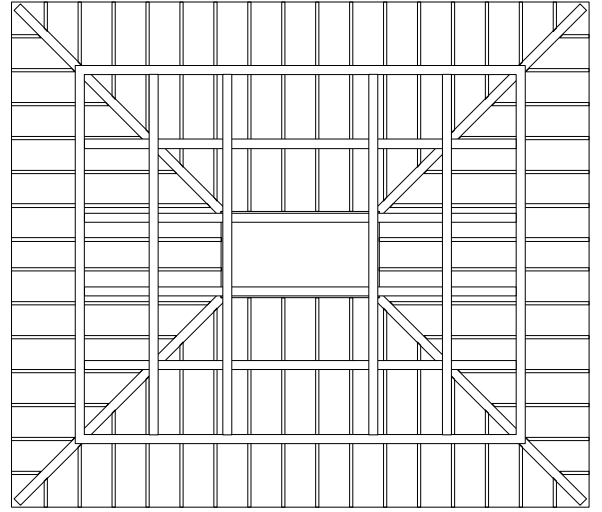


展開圖B

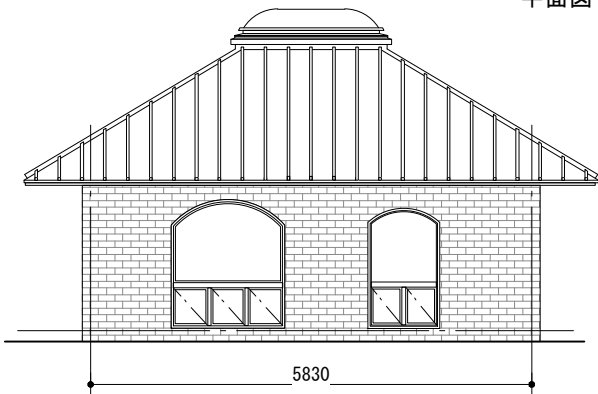
■改修案



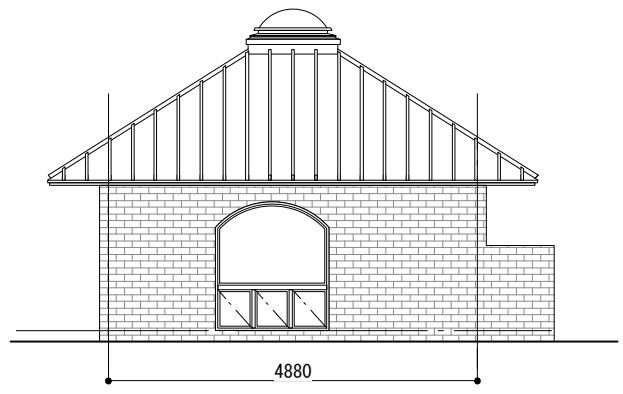
平面图



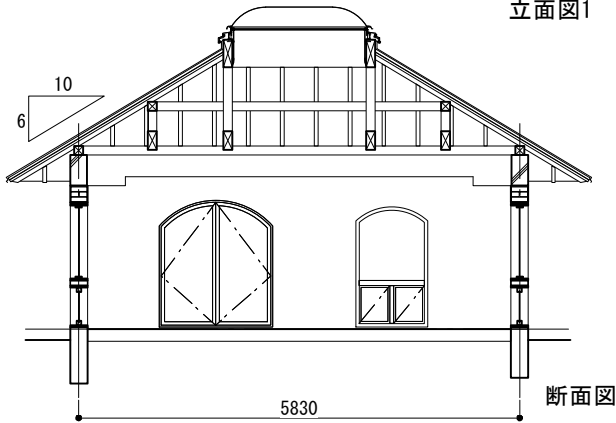
屋根見上图



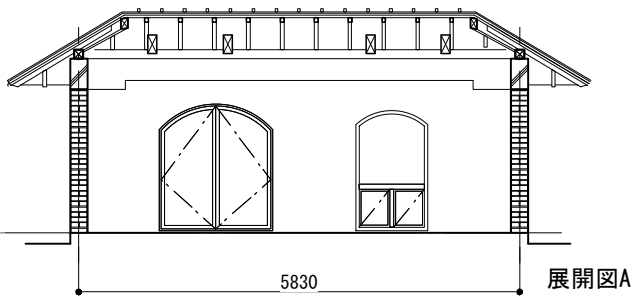
立面图1



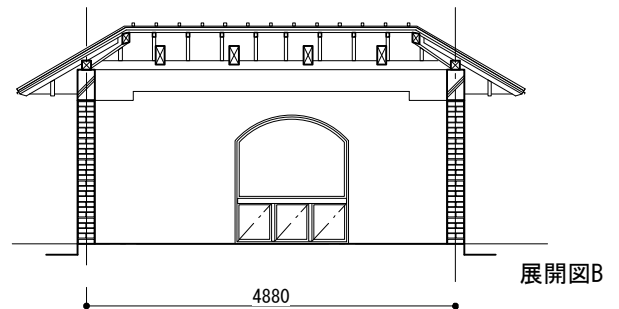
立面图2



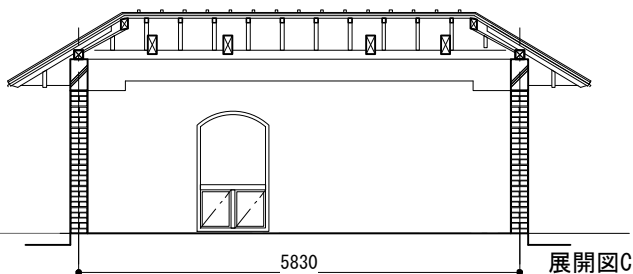
断面图



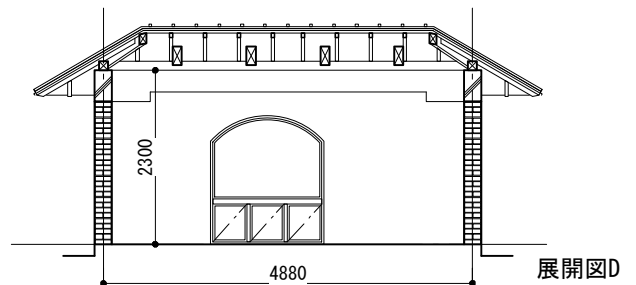
展開図A



展開図B



展開図C



展開図D